

- ・日本語を正しく理解し、聞くこと・話すことをはじめ、読んだり書いたりできる基礎となる能力や、職業や生活行動などの日常の場面で必要となる問題解決力を身につけることを目指します。また、差別の解消や多文化共生社会の実現をめざし、人権学習に取り組むとともに、参加者同士の交流を図ります
- ・2019年のビザ拡大により日本(語)の基礎なく、入国する家族の日本での居所になることを目標としている
- ・学習者同士の交流と生活相談に注力し、地域への融合が速やかにできるよう指導する
- ・日本語学習支援を通して、日本人の優しさを感じてもらいたい。教室外活動、お花見やお料理会などを楽しみながら、日本の文化や習慣に慣れ親しんでもらえるよう努める
- ・楽しい教室であること
- ・どんなことでも支援者に相談できる教室であること
- ・言葉は「道具」。言葉を使用して、仕事、日常生活、学校での学習等に活かすことの支援
- ・地域日本語教室の役割として、生活情報の発信(防災、日常生活の支援)
- ・仕事、学校生活だけではなく、地域住民との交流、地域を知る、スポーツなどを通して日本での生活を楽しむことのお手伝い
- ・高齢者が夢と希望をもって学習に参加するような配慮
- ・学習者の目的やニーズをよく知り、それぞれのキャリアプランに合う日本語学習指導を心がけています
- ・大阪の子ども支援教室の中で、母国の中学校を卒業した後来日し、高校進学を目指す「ダイレクト」への進学支援を行う数少ない教室として、学齢超過の子ども等従来の支援の枠からこぼれ落ちてしまう子どもへの支援を大切にしている
- ・「平日の夜間に日本語学校・教室に通う機会がない」「日本語学校等で長期間集中して日本語を学ぶ機会がない」「日本語が全く話せない(いわゆる日本語ゼロベース)」外国人住民に対し、テキストに従ったカリキュラムに基づき、体系的に授業が受けられる場を提供している
- ・学習者ひとりひとりのニーズに寄り添った勉強ができるよう、個人 or 少人数レッスン体制を準備すること
- ・どなたでも安心できる場所を提供すること
- ・日本語の勉強だけでなく、学習支援者と学習者が交流を深められたり、学習者の困りごとに耳を傾けたりすること
- ・学習支援者にとってもエンパワーメントされる機会となること
- ・学習者と支援者が互いを尊重し学び合うこと
- ・外国人参加者一人ひとりの希望や日本語能力に合わせて基本的には一対一で対応することとし、通常は毎回相手が変わり、たくさんの人と会話することができ、多様な日本語にふれることができる。また、日常耳にする機会の多い大阪弁への理解を進めるため、「大阪弁コーナー」を盛り込むなど、一般的なボランティア運営の日本語教室(標準語による指導だけ)と差別化を図っている
- ・「開設趣旨と活動方針」に基づき、教室運営を行っている。そこでは、ユネスコの示す識字の理念を活動の原点とし、お互いの人権を尊重しつつ、学習者も学習支援者も「ともに学ぶ」という立場を大切にしている。コロナの終息後はさらなる外国籍住民の増加が予想される。今後とも、こうした立場を重視しつつ取り組みを進めていきたい
- ・私たちは、生活に必要な日本語を外国人の人権を念頭に入れて教授していくことに努めています。そして外国人が置かれている状況に配慮して、実習生制度や難民認定、雇用や保障、差別など常に学ぶ姿勢を保ちたいと思っています。相談を受けたときはともに考え、的確に紹介できる機関を紹介できるようなスキルを身につけたいと思っています。この教室が外国人のセーフティーネットになることをめざしています。日本語の教授にもスタッフ間で疑問点を話したり、教え方を協議したりしています

- ・生活者としての外国人が大阪で仕事をするために必要な日本語や、企業文化等を学ぶ機会を提供する
- ・受講者の中で希望者には外国人の就職サポートを行う NPO と連携し、就職に向けたアドバイス講座を実施し、日本企業への就職を支援する
- ・日本語教師の資格を持つ教員が、オリジナルテキストを使って、日本語だけで楽しく教える
- ・大阪に在住・在勤する外国人が、ほぼ毎日日本語を学習することによって必要最低限の日本語の早期の習得を目指し、安心安全に生活できるようになることを目的とする。また、学習を通して日本文化や習慣への理解を深め、周囲との円滑なコミュニケーションに寄与できるよう支援する
- ・就労が必要な若年層には、生活、就労に必要な日本語を中心に学習支援を実施している。一方で中国残留邦人 1 世代を中心とする高齢の学習者には、学習だけでなく引きこもり防止を目的とした「居場所」作りにも取り組んでいる
- ・下記 5 点を大切にしている
 - ①日本人・外国人を問わず相手の立場を尊重し、自分の意見を相手に押し付けず、対等・平等に接することができること
 - ②会話の内容や参加者についての情報を共有できること
 - ③コーディネーターと大学生インターンが協力し、積極的にお互いコミュニケーションをとること。みんなて協力して場づくりをすること
 - ④自分が話したいことを優先せず、参加者のニーズに合わせた交流をすること
 - ⑤やさしい日本語でゆっくり、はっきり、短いセンテンスで話すこと。言葉だけでなく絵や図などを書いたり、写真や実物を見せたり、身振り、手振りを使ったりなど、いろいろな方法でコミュニケーションを図ること
- ・わからないことを「わからない」と、素直に言える雰囲気、その人が、その人らしくいられる雰囲気を大切にしています。自分の得意なことを他者に教える機会をつくっています。たとえば、地域の学習者が、日本語学習者に折り紙を教えたり、ゆかたの着付けをしたりします。自国や住んでいるシェアハウスについて説明する日本語学習者もいます。だれもが、教える側になったり、学ぶ側になる「ともに学びあう」を大切にしています
- ・先生（講師）と生徒、教える側と教えられる側ということではなく、支援者も学習者も、一緒によりよい活動となるよう考え、一緒につくっていく教室であるということに参加者全員が共有すること
- ・春節祭など、皆で参加できる行事の継続
- ・学習者の半生を語り綴ってもらい、現在の差別に向き合えるように人権を重視して取り組んでいきたい
- ・学習者・支援者それぞれの個性を活かして楽しく活動する
- ・ボランティアに干渉しない
- ・識字・日本語は基本的人権の 1 つとして保障されるべきものとして捉える
- ・学習者の生活や文化背景等を尊重し、講師も共に学ぶという姿勢で臨む
- ・学習者、講師みんなが共に教室をつくるという視点を持つ
- ・学習者が主体的にかかわり、「自己実現」がはかれる取り組みを行う
- ・先生と生徒の関係ではなく、なんでも相談し合える親子・きょうだいの関係でいたいと思いますが、お互い余り入り込まないよう相談事は皆で（秘密を守りながら）シェアしています
- ・学習者はコロナ禍にあって、日本語を忘れていく傾向にあるので、ビデオ電話や電話でつながるようにしています。また、別にボランティアグループの LINE を作って交流を図っています
- ・学習者の希望に応じて、生活に密着した日本語を勉強する

- ・学習者にできるだけ満足してもらえるように支援したい
- ・無理せず長く続けること
- ・平等で開かれた明るい教室であること
- ・学習者が楽しく、しっかり学習できるように、サポーター同士コミュニケーションを密にとるようにしています
- ・学習者も支援者も来るもの拒まず、去る者追わず
- ・年齢、日本語スキルなど不問で来る人は誰でも受け入れるつもりです。学習者にとって心安らく居場所でありたいと思っています
- ・学習者が安心して学習ができる場であること
- ・生活や仕事のことなど相談できる信頼関係であること
- ・学習者、支援者が活動を通して共に学ぶこと
- ・日本語の読み書きや会話による交流をとおして、学習者の学びの場を提供し、それぞれの国の文化等を理解し合う
- ・実技研修者のベトナム人、知的障害者、中国人など多様な方がいるので、みんなが識字を楽しみにするような雰囲気づくりに気をつけている
- ・交流できる機会を常に持つようにしている
- ・楽しく学習、楽しく交流

※自由記述は原文のまま掲載しています。